

看護部だより

ひまわり



2012年7月

発行責任者：小牧加代子

Vol. 19



優良看護職員厚生労働大臣賞受賞

関口了子看護顧問



6月5日(火)関口了子看護顧問が幕張メッセで開催された平成24年度日本看護協会通常総会で優良看護職員の厚生労働大臣表彰を受賞されました。

これは永年看護職員として看護業務に精励し看護の向上発展のために尽力され、また後輩の指導育成に当たられるなどその功績が顕著であると認められたものです。

受賞、おめでとうございます！！



集中ケア認定看護師

3階東病棟 猿楽大輔



認定審査を合格し、無事に集中ケア認定看護師になることができました。ただ、認定看護師になることは到達点ではなく通過点だと思っており、これからどのように活動するかが重要だと思います。初心を忘れることなく頑張ります。

当院はクリティカルケアを病棟が担っている現状で他院と比べると人員不足が否めないですが病棟でもICU並みの質の高い看護を提供できるように病院全体のレベルアップを図っていこうと思います。集中ケア認定看護師の特化技術はフィジカルアセスメントと早期リハビリテーションで生体侵襲理論や危機理論、呼吸器、循環器、脳神経系、侵襲栄養学やME機器を装着している患者の看護など専門分野は多岐にわたります。

今後RST(呼吸ケアサポートチーム)・RRT(院内急変初期対応チーム)の立ち上げを行い、組織横断的に活動していくように日々勉強を怠らずに臨床実践を積んで行こうと思います。勉強会などの依頼や、患者のフィジカルアセスメントで困った時はいつでも連絡ください。



緩和ケア認定看護師

4階東病棟 松若元子

今年7月に緩和ケア認定看護師の認定審査に合格しました。

がんと診断されさまざまな治療を受けながら生活をされている患者さん一人ひとりに早期から関わらせて頂き、診断されてからも患者さんがその人らしく日常生活を送ることができるよう、症状緩和をはじめトータルペインの視点で、チーム医療を提供し患者さんとご家族にとっての最善を尽くしていけるように努力をしていきます。

患者さん、ご家族、スタッフの皆と共に、患者さんの「今」という時間、患者さん一人ひとりを大切に思い、患者さんとそのご家族が「大切にしてもらえた」「この病院で良かった」と思っていただけるよう心を込めた看護をたくさんのスタッフと一緒に考えながら行っていきたいと思います。

新人一泊研修(5/19～5/20)

今回教育委員、新人1泊研修参加も初めてであり私自身も不安でした。しかし実際に参加してみると、楽しく過ごせました。座談会担当で、どのように新人さんの思いを引き出せばよいのか、とまどいもありましたが素直に話してくれてよかったです。新人さんの思い、プリセプターの思いが聞けて、私自身も学ぶことができたし、初心を思い出すこともできました。今後の新人教育や後輩の指導にも活かせそうです。

日頃このように新人さんの思いを聞く機会がないので、この1泊研修は有意義なものだと思います。みんなで協力しあうことで、協調性も生まれ助け合いの心が養われると思います。同期の大切さを感じることができたのではないかでしょうか。教育委員として未熟ではありましたが、参加できてよかったです。みんなの素の表情や行動がみられてよかったです。新人がローテーションで患者様のケアに集中できるように支援し、教育委員として、今後も関わっていきたいと思います。(西川)



教育研修レポート



スタートイング研修

6/26 コミュニケーションについて

講師:臨床心理士 吉田恵子先生

みなさんは患者さん方と良いコミュニケーションがとれていますか?人の印象は会って30秒で決まるそうです。笑顔、挨拶、見出しなみ、しっかりとできていますか?良いコミュニケーションをとるために、聴く80%、話す20% 聽くに徹する。答えられない質問ほどよく聞くこと(話を正しく、自分の思いを混ぜないで聞くこと)が大切であることを学びました。患者さん方と良いコミュニケーションをとるために、笑顔忘れず、「傾聴」していきましょう。(有馬)



ランニング研修

5/10 コーチング 講師:小嶋和子主任

最初コーチングについては聞いたことがない方がほとんどでした。コーチングって、相手が自主的な目標に向かっていけるように関わるコミュニケーションです。今の若者はコミュニケーションを苦手とします。看護師は「傾聴」という言葉が好き?で多様しますが果たして聴くってどういうことなのでしょうか?あなたのことを知りたいと思っているときの聴き方ってありますよね。視線を合わせて、うなづき落ち着いた表情で、話すのではなく聞き役に徹する。考えを話しているうちに、相手は自分の言葉を耳から聞くことでもう一度考えることができ自分の気づきへつながるのです。また自分で言ったことであり、それなりに責任感ややる気へもつながるということでした。3年目を中心とした受講者はプリセプターを担っている人が多いです。このコーチング技法を利用してプリセプティを育て、自分の自信へつなげて欲しいです。人を褒めることが苦手な人は、まずは自分を褒めることから始めましょう。(瀬戸口)

ジャンプ研修

6/28 実習指導の原理、実習指導案作成の基礎知識

講師:平順幸主任

事前に「学生に対するあなたのイメージは」という内容の課題提出がありました。どの部署も同じようなイメージを持っていると感じました。講義の途中、4グループに分かれ、「自分が学生の時どうだったか」「良い臨床指導者とは」という議題について話し合い、発表してもらいました。また今後は各部署にくる実習の中から1つを選択し、三観(教材観、学生観、指導観)を考察(8/2に提出)。次回の研修(8/9)にグループワークにて週案・日案作成。9/27に発表となります。指導案作成は難しいこともあるかと思いますが、その部署でしか学べないことなどをふまえて、立案できるとよいと思います。(西川)

専門コース(HCU)

6/19 第一回フィジカルアセスメント 講師:猿楽大輔

今年度から新しい取り組みとして、集中ケアの認定看護師を取得された猿楽看護師に依頼し、フィジカルアセスメント研修を始めました。6/19に呼吸器系に関する研修が開催されました。

解剖生理学や酸塩基平衡、酸素投与に関する基礎的な知識から、応用編として症例検討を行い、アセスメント技術を学びました。参加者の感想の大半は、内容が濃くとても難しい研修だったとのことでした。私自身も、これまでの知識のなさを痛感し、分かっていた事と曖昧だった所、知識が足りなかつた所を把握でき、とても良かったと実感しています。

7/27(金)は院内公開講座で循環器系を予定しています。この研修をきっかけに多くのスタッフが知識を深められ、ディスカッションを行う上で患者さんへより質の高い看護の提供ができればと思っています。(下麦)

ウォーキング研修

5/31 看護過程と看護記録 講師:片平広美主任

5月31日に行われたウォーキング研修では、「看護過程の展開と看護記録・看護記録の倫理的な配慮」をテーマに、講義を行っていただきました。

内容は看護記録の概論から看護過程についての講義、看護診断についてと普段業務に必要な知識の確認・学習が行われました。

また、事前に配布されていた事例の情報(データ)の整理をカテゴリーに振り分け、それをグループワークでメンバーと意見交換を行い発表が行われました。とても理解しやすい研修になったのではないかと思います。

倫理的な配慮に関しても、普段書かれている記録の中に倫理的な問題が発生している可能性があるかもしれない事を意識する必要があること、また見直しが必要である事も学べる研修であったと思いました。(小浦)

ステップ研修

5/22 研究計画発表会

ステップ研修では、1年間を通して看護研究を実施していきます。今回は、その看護研究の計画発表でした。看護研究の計画書はとても大事です。看護研究が計画書の時点で主張やその根拠が立証できないと、その後の研修自体に価値が無くなってしまいます。自分達の実施したい研究内容を色々な角度から見れるようならないといけません。しかし、完璧なロジックを考えるより、崩す方が樂です。だから、計画書には完璧はないと思う事。自分たちの計画の目的と同時にその弱点を知っておく事が大事だと思います。

看護計画書を通して、自分たちの主張に対して色々な角度から見直せる力をつけてもらえばいいなと思っています。(中森)

キャリア(1年目)研修

6/7 看護管理の視点

講師:緒方くみ子看護部長



キャリア1年目研修生19名を対象に、昨年同様に「看護管理とは、5つのマネジメント力、看護観・管理観、看護倫理、臨床倫理と患者の自己決定支援について」講義をしていただき、後半の最後に研修生を4つのグループに分けてグループワークをしました。まとめに、『あなた達は病院の“要”です』という言葉からも分かるように、今後、各個人がキャリア生として自覚し、自らの生き方・看護観を持つことにより、自己の管理観に繋がる。今後は、病院の中心的存在で活躍し続けなければならないことを、改めて認識する事ができた研修となりました。(吉永)

院外研修報告

【災害発生時の看護対応とマニュアルの整備・活用】

外来 平順幸主任

今回この研修に参加した経緯は、昨年発生した東日本大地震や今後起こる可能性の高い首都直下型地震など災害に関する意識の高まる中で、今年度当院主任会の年間計画で「災害看護」に目を向けた活動を行う事となり、その代表として研修に参加しました。

講師は中越地震・中越沖地震と2度の地震を経験した小千谷総合病院の前看護部長：佐藤和子さんです。勤務する病院が被災し病院機能が失われた状況で、入院患者の避難や傷病者の対応などを実際に体験した中から、今までのマニュアルの見直しや改正を行い、災害時に活用できるマニュアル作成を行ってきた経緯や実体験を通じ災害時の病院の様子などを講演して頂きました。

講演の中で一番印象に残った事は、防災ではなく減災マニュアルの作成を行っていくという事でした。災害は防ぐことは出来ませんが、災害の被害を最小限にする事が出来る。そのためには、日頃の準備や教育・訓練・活用できるマニュアル整備が必要である事を教えて頂きました。今回の研修を主任会に持ち帰り、今年度の活動に活かしていきたいと思います。

【リンパ浮腫指導者養成講座】

3階西病棟 松元美智子主任

平成24年5月21日から6月9日の3週間、福岡市内で行われたリンパ浮腫指導者養成講座に参加してきました。参加人数は42名で参加者の職種はPT・医師・看護師とさまざまでした。講義はリンパ浮腫総論を始め生理学・解剖学・リンパ浮腫に対する理論や指導の実際などで、実習(実技)内容も弹性ストッキングの装着法・多層包帯法・リンパドレナージ手法・運動療法など、実習内容もかなり充実していました。実際に2日間リンパ浮腫の患者さん2名に来ていただき、下肢・上肢のリンパドレナージ法・多層包帯法を見学させていただくことができました。今回の研修に参加させて頂いた動機は、これまで看護師として患者様方の看護をさせていただく中で、癌の患者さん方でリンパ郭清をされた方

や、ターミナル期の方の中に、上肢や下肢のリンパ浮腫が強く大変苦労されている方を幾度となくケア・看護させて頂きました。リンパ浮腫看護に対し全く知識がなく、何もしてあげることが出来ない自分自身にとてもジレンマを感じていました。今回の研修で取得した技術を最大に活かすことができるよう、これからも技術の向上を図りながら患者様の看護・ケアをおこなっていきたいと考えています。



認知症高齢者対策研修

3階西病棟 幸得やえみ

熊本の国立病院機構菊池病院にて4日間、認知症高齢者対策研修を受講してきました。

兼ねてより認知症に関する研修には参加してきましたが、認知症の基礎知識の再確認や詳しく理解することができたと思います。講義の中でメンタルケアの10ヶ条に添った看護を学び、その中の”老人の「今」を大切にすること”に気づく事ができました。

認知症患者には10分前の過去もちょっと先の未来もありません。「今」を安心して暮らすことが重要であり、病棟実習でも患者は過去の事や今後の事の訴えはなく、今の事しかありませんでした。

今回学んだ事は認知症患者にかかわらず、すべての患者に対する看護にも関わる重要なことであり、看護に対する自分の考えが変わった事で以前のような苛立ちの感情や悩むことも無くなったと思います。今後ますます高齢社会となり認知症も増加する可能性があります。急性期での認知症患者看護について自分の役割が果たせるように努めたいと思っています。

施設見学①

静岡県 浜松医療センター

感染管理者 中野智子師長

「浜松でもっと勉強して来い！」という指令が発せられ、私を含む3名の感染対策チーム(以下ICT)メンバーは、矢野邦夫先生の勤務される「浜松医療センター」で研修をさせていただきました。現在抱えている問題点、日頃の疑問点などをリストアップし、キャリーバッグにパソコン、お土産など大荷物を抱え、新幹線で6時間かけて浜松に到着しました。感染症の専門家が揃い、最先端の感染対策を実践している「浜松医療センター」のICT活動の実際を見学させていただき、当院でも実施できていること、こんな風に工夫ができるなど、様々な気付きや学びがありました。今後のICT活動の充実と活性化へ繋げていきたいと思っています。



以前当院にICTの講演会に来て下さった先生です。

浜松と言えば「うなぎ」です。うな茶丼をおいしくいただきました。
(*^_^*)



施設見学② 鹿児島大学病院 手術室

手術室 長元 加奈

私は入職してから9年目になります。当院での職務経験しかなく、カンファレンスの場などで、他の病院ではどのような工夫をしているのか、どのような看護をしているのかなどと思う事がありました。他施設での手術室看護を見学する事で、カンファレンスの場などで提供できる情報を多くし、当院の手術室看護に活かし、手術室看護の向上に努めることを年間の目標として挙げ、活動を行っています。

5月15日に鹿児島大学病院手術室の、整形外科と脳神経外科の手術の麻酔導入から、麻酔覚醒までの見学を行いました。今回、事前に当手術室スタッフへアンケート調査をし、視点を絞って見学してきました。

大学病院手術室は、当手術室より規模がかなり大きく、比較するのは難しいですが、ガーゼカウントのタイミング・方法についてや、器械のチェック方法について取り入れたいと思う良いところなど、良い学びもありました。しかし、当手術室で行っている看護と、大学病院で行っている看護が大きく変わらず、当手術室で行っている看護の方が、1人の患者さんの術前から、術後までを通して看ることが出来ており、患者さんに寄り添った良い看護が提供できているということが分かり、自分達の看護への自信に繋がる結果となりました。6月25日に手術室内で、報告会を行い、スタッフへ情報伝達し、学び・得られたことは今後に活かしていき、今行っている自分達の看護には自信を持ってもらえるよう働きかけています。

今回他の施設を見学して、得られるものの大きさを感じました。手術室だけでなく、他の部門も他施設を知る事で、自分達の行っていることとの比較ができ、良いところ、悪いところが分かり、より良い仕事につながっていくのではないかと思います。是非他部署の方たちも施設見学を企画してみてはどうでしょうか。

ミニナラティブ 3階東病棟 福山由夏

私は、原発不明癌で右頸部に腫瘍のある患者を受け持ちはしました。この患者は化学療法を開始するも副作用があり、中止となりました。その後、徐々に疼痛・胸やけが増強していくと、ナースコールも頻回になり「痛い…苦しいよ…」良い薬があれば一番いいんだけどね。ここは病院なのに楽になれる薬はないの？」と苦痛の訴えがある度に傾聴していましたが、患者より「苦しい」という言葉が聞かれた時は一番辛かったです。疼痛コントロールが不良となり、麻薬が導入され、鎮痛剤を使用する、訴えを傾聴する、身体をさすこと位しかできず、自分の無力さを感じました。目の前で苦しんでいる患者がいるにも関わらず、自分は楽にしてあげることもできない。患者は優しい性格の人であり、私が付き添っていると「ありがとうね。もう大丈夫、いいよ。忙しいのにごめんね。」と言われることもありました。患者様が亡くなる前日に、奥様が付き添いをされていました。先輩看護師の助言により、この患者様との関わりを通してご家族への配慮、鎮痛剤の知識を身につけること、鎮痛剤使用後の観察等、様々なことを学ばせて頂き、今後の看護に活かしていきたいです。(福山)

マイブーム 4階東病棟 中森一文

最近、7歳になる娘がピアノ教室に通うようになりました。それをきっかけに電子ピアノを買い、私も、娘にならってピアノの練習始めました。その理由は、娘が使うだけはもったいないと思ったからなんですけど…。娘には負けないと思って始めたピアノの練習ですが、全く左手が動きません。いや、右手も(笑)。しかも、小学校の頃から音楽の授業をはじめに受けてこなかった私は楽譜を読むのも一苦労！小学生のころ、「音楽の授業なんて、大人になったら何の役にもたたねーよ」と思っていた自分を恨みます…。

今の目標は、好きなバンドの曲をピアノで弾けるようになること！それが達成できるように、頑張りたいと思います!!!



編集後記



7月は大変うれしい報告がたくさんありました。関口顧問の「厚生労働大臣賞受賞」、認定看護師「集中ケア・緩和ケア」2名の誕生、リンパ浮腫指導者合格。本当におめでとうございます。また、キャリア研修の個人目標として企画・実施した施設見学。一人一人の意識の変化やがんばりが、組織の活動の源となり、いずれは大きな波となり、さまざまな人や場所へ影響を与え、今後の後輩育成や組織改革などに波及していくことが期待されます。また、周囲の人たちの協力と支えの賜物でもあったと思います。お互いが感謝の気持ちを忘れずに、次に続く人が一人でも増えていくといいですね。(小牧)